

令和元年度 第5回練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会 会議要約

◆開催日時

令和元年5月29日(水) 13時30分～15時00分

◆開催場所

練馬区役所本庁舎 20階 交流会場

◆出席者

1 委員

秋元雄史委員長、福井直昭委員、江村健二委員、島田紘一呂委員、
関口登美雄委員、江川誠志委員、須藤麻世委員、前田尚子委員、今田裕子委員
小金井靖(地域文化部長、副委員長)、矢尾板克之(施設整備課長)、
近野建一(経済課長)、小沼寛幸(文化・生涯学習課長)、清水優子(光が丘図書館長)

2 事務局

文化・生涯学習課施設計画担当係 林、渡邊
株式会社 丹青研究所

◆会議意見要約

議事 再整備のコンセプトに基づく施設機能について

【委員】

- ・図書館や緑地、隣のビルのレストランなど、美術館の周りの施設は子どもの利用を歓迎する雰囲気があるが、美術館だけが違う。子どもが美術館に来るからクオリティが下がるといことはあまりないと思うので、ぜひキッズスペースを設けてほしい。

【委員長】

- ・全体の動線や、誘導のしかたも工夫する必要がある。1階と2階の上下移動がバリアになることがあるが、それがうまく面白さにつながるような配置を考える必要がある。

【委員】

- ・余韻を楽しむスペースがほしい。
- ・託児機能を設けられるのであれば、たとえば布の絵本など、本に触れる機会を提供することも必要だと思う。

【委員】

- ・「サポーター活動スペースの新設」に大変期待をしている。多目的室やロッカーなどがあれば、活動しやすくなる。活動が活発になれば、若い人の参加も出てくるだろう。

【図書館長】

- ・図書館に来たお子様連れがそのまま図書館で過ごすことも、美術館に足を向けることもできるような一体化したスペースを考えていく必要があると思う。
- ・多目的や子ども用トイレも考えながら、工夫していかなければいけないと思う。

【委員】

- ・今はロビーにソファがあるが、高齢者が美術館を訪れることが多いので、全世代に対応できる美術館ということも必要だろう。

【委員】

- ・サンライフを一緒にすることは無理なのか。

【経済課長】

- ・サンライフを所管する経済課では、サンライフの機能について内部でも議論しているがまずは美術館のコンセプトを受け止めて進めていければと思っている。

【委員】

- ・事務室の前の中庭は、あまり手入れもされていないので無駄な感じがする。ガラス張りなので、遊んでいる子どもが見られる。使えるようなら転用して有効利用できたらよいのではないか。

【副委員長】

- ・キッズスペースにはたぶん2種類があり、保育施設的なものと、積極的に美術館が美術のサービスを行うものがある。図書館では子ども読書推進活動をすすめており、美術館と図書館とで、うまく融合できるのではないかと思っている。

【委員長】

- ・キッズスペースも新しいものができると思う。図書館と美術館のプログラムのいいところりをしていくような感じで、ある意味ではそれが中心になっていってもかまわないのではないか。

【図書館長】

- ・静かに本を読みたい方、静かに美術を鑑賞したい方がいらっしゃる中で、子どもも楽しめる催しが遠慮なくできるスペースを融合して作れるのであれば良いと思う。

【委員】

- ・子どもたちに対する部分が非常に重要である。子どもたちが自由な発想で、作品をつくれる場があったほうがよい。

【委員】

- ・子どもたちが喜んで自然と美術館に入ってこられるような展覧会や活動を行うことは、地域美術館にとって重要な役割である。
- ・美術館は感性を刺激する場である。視覚だけでなく、嗅覚・聴覚・触覚も含めて感性に訴えかける体験を提供できるようにすべき。こうした体験は、地域住民の福祉につながる施設としても期待できる。
- ・企画展示室面積が1,000㎡あると、かなりいろいろな企画展に対応できる。
- ・情報化やインタラクティブへの対応を行う情報機器に対応するための大前提として、展示室のコンセント設置が必要。ただし、情報機器は短期間で古くなってしまふ。できるだけ簡易に入れ替えができるよう、簡便なシステムを選択すべき。

【委員長】

- ・今回の練馬区立美術館の改修の一つの特徴は、美術館と図書館をできるだけ近づけていく方向で考えている。美術にしても文字言語にしても一種の想像力の世界なので、いかようにも想像の翼を広げることのできるバーチャルな空間がかえって面白いかもしれない。
- ・あらゆる人たちに向けてオープンにしていこうという部分と、美術館の持っている情報をデジタル空間でもオープンにしていこうということが全体としては求められていると思っている。どこまで対応していくかは課題である。

【委員】

- ・幅広い障害者を受け入れられるような展示のしかたをしてほしい。

【図書館長】

- ・心障センターも近くにあるので、障害者の方たちも利用できるスペースの工夫もより重要と考えている。
- ・貫井図書館では対面朗読室の需要が高いので、独立した部屋が複数あると使いやすい。

【委員】

- ・今回の美術館が拡張していくプランだと、サンライフのどこかが縮小していかないとダメなのではないかと思われる。サンライフを利用している人たちのニーズもあるので、そういう声も守りつつ、やっていってほしい。

以上